

1 年学年通信 11 月号



文責：倉本

秋風到来！今こそ「自主自律」の学びを！

11月に入り、涼しさが一層増してまいりました。この時期、「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」「食欲の秋」という言葉をよく耳にします。私はこれに加えて「学習の秋」を提案したいと思います。秋は、夏の暑さが和らぎ、過ごしやすい気候となり、集中力が高まりやすい季節です。新たな学びや目標に向かって取り組むには、まさに最適な時期です。

高校1年生として、これからの学びは進路を大きく左右する重要な時期を迎えています。日々の授業や課題に取り組む中で、疑問を大切にし、それを解決するプロセスを楽しむことが成長につながります。ぜひ、イベントの少ない秋のこの時期を「学習の秋」として、自己成長のために活用してみたいはいかがでしょうか。



月	火	水	木	金	土	日
				11/1	2	3
				いしかわ教育ウィーク（～7日）、冬服衣替え	授業日（月曜授業）、教育講演会（午後）	文化の日
4	5	6	7	8	9	10
振替休日			新人大会（後期）①	新人大会（後期）②	新人大会（後期）③	新人大会（後期）④
11	12	13	14	15	16	17
	1年思春期講座（6、7限）					
18	19	20	21	22	23	24
学習時間調査（～11月24日）					勤労感謝の日	
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
2学期期末試験①	2学期期末試験②	2学期期末試験③	2学期期末試験④	2学期期末試験⑤	GTEC（4技能）	

量と質 どっちが大切??

冒頭でも触れましたが、私にとっての「〇〇の秋」は「芸術の秋」です。そこで芸術家の頂点「パブロ・ピカソ」を例に挙げて、量と質のどちらが大切かという問題に、1つの答えを出します。

世界的に有名なこの画家は、一生で15万点以上の作品を制作したと言われています。その枚数をこなすには、計算すると10歳ごろから1日も欠かさず5枚以上の絵を描き続けなければなりません。

このことから、ピカソは【量】を非常に大切にしていたと考えられます。やはり量は大切ですね。

またピカソは、作風がどんどん変化していったことでも有名です。最初は誰が見ても上手な、いわゆる王道の作品を描いていました。次第に線が角ばっていき、歳月を重ねるうちに落書きとも思えるようなシンプルなものも描くようになりました。それらの変化の中で、様々な要素を凝縮した作風に行きつき、超大作『ゲルニカ』や『泣く女』等の代表作を描くこととなります。これは、ピカソがただ膨大な量をこなしていただけではなく、常に理想や目標を持ち、それを本気で追求していた結果だとわかります。このことから、【質】も非常に大切にしていたことと考えられます。

現在の私たちの生活では、ピカソのように絵だけに熱中することはできません。しかし、限られた時間の中で、1つ1つの活動に対して少しでも多くの量を、少しでも高い質でこなしていく両立は可能です。もちろん、量と質のバランスは、時期によって、或いは学ぶ単元や強化したい技術によって柔軟な変化が必要だと思います。それでも、【量も質も、どちらも100%の力でやる】という姿勢そのものが大切だと考えます。これが私の答えです。

理想は高ければ高いほど達成することは難しいですが、量も質も全力で出し切ることをあきらめないで1日1日を過ごしてください。上手いかない日や最悪だと思う日があると思いますが、あきらめなければ、きっと誰もが想像しなかった高みに上り詰めているはずですよ。

文章を読んで気持ちが高まった人がいましたら、高1の11月デビューしてみませんか？新たな気持ちで挑戦しようとするみなさんを、1年学年団一同、全力で応援します！



ゲルニカの陶板 (大塚国際美術館にて)

2学期期末試験に向けて、“本気の”準備を始めよう

12月2日(月)から、いよいよ2学期期末試験が始まります。今回は、月曜日から金曜日までの5日間にわたって、休みを挟まずに一気に実施されます。試験は主要科目だけでなく、保健や家庭基礎といった教科も含まれています。そのため、どの教科も疎かにできず、全方位的な準備が必要です。

そのため、今回の試験においては付け焼き刃の学習で乗り切るのは難しいでしょう。授業で習ったことをしっかりと理解し、それを確実に定着させることが求められます。試験範囲は広く、また内容も深まっているため、直前になって一気に詰め込もうとしても、十分な学力を発揮するのは難しいはずですよ。

まず、計画的な学習を心がけましょう。漠然とした学習では、どこから手をつけて良いか迷ってしまいがちです。各教科の試験範囲を把握し、優先すべきポイントを明確にすることが重要です。そして、試験日までのスケジュールを逆算して、毎日少しずつ進めるようにしましょう。

さらに、授業内容やノートを見返し、理解が浅い部分や苦手な分野を洗い出すことも大切です。苦手分野を早めに把握し、その克服に力を注ぐことで、試験当日に自信を持って臨むことができるでしょう。得意分野を伸ばすよりも、苦手を得意にできたときの経験は大きな自信に繋がります。

さあ、11月のスタートを好機と捉え、学年目標である自主自律の学びを確立させましょう。

【本校初開催】校内ビブリオバトル！！

10月22日（火）、本校で初めて「校内ビブリオバトル」を開催しました。このイベントは、生徒たちが自分のおすすめの本を紹介し、聴衆がその本を読みたくなるかどうかを基準に投票するというユニークな読書推進活動です。どの本が「チャンプ本」となるかを決めるのは、代表生徒一人ひとりが長所を生かした至極のプレゼンテーションです。読書の楽しさを共有し合う素晴らしい機会です。

ビブリオバトルでは、参加者一人ひとりが選んだ本に込める思いや、他の生徒にどうその魅力を伝えるかが鍵になります。ただ単に内容を紹介するだけでなく、自分がその本に感じた感動や学びを、聴衆にどう伝えるかが勝負どころです。

独自の計算式を用いて本の価値を説明する生徒、身振り手振りで本の良さを伝える生徒、聴衆の席まで本の見どころを見せに行く生徒、挙手を求めたり笑いを誘ったりする生徒、様々な手段を使って会場を沸かせていました。どの生徒も自分の持ち味を発揮しており、本当に素晴らしい発表でした。

今回は特に、生徒たち自身が司会や審査を担当したことで、イベントに対する意識が高まっていたと思います。司会者は、発表する生徒のトリビアを用意して上手に紹介したり、聴衆も前のめりになって反応をしてイベントを盛り上げたり、真剣でありながら楽しむ姿が印象的でした。1年生の学年目標は「自主自律をめざして」です。自分たちで運営するビブリオバトルは、生徒の自主性や主体性を伸ばす良い機会にもなりました。

ビブリオバトルを通じて感じたことは、本を紹介すること自体が一つのクリエイティブな表現であり、また他者と読書の喜びを分かち合うことで、互いに新しい視点や知識を得られるということです。このような機会が生徒たちの読書への関心を深め、より豊かな学びにつながったと確信しています。

今回は、各ホームの代表による熱気あふれる発表が続きましたが、今後は希望者全員参加型など形を変えながら定期的開催できればよいと考えています。次回は、誰がどんな本を選び、どんな発表をしてくれるのか、今から楽しみでなりません。



